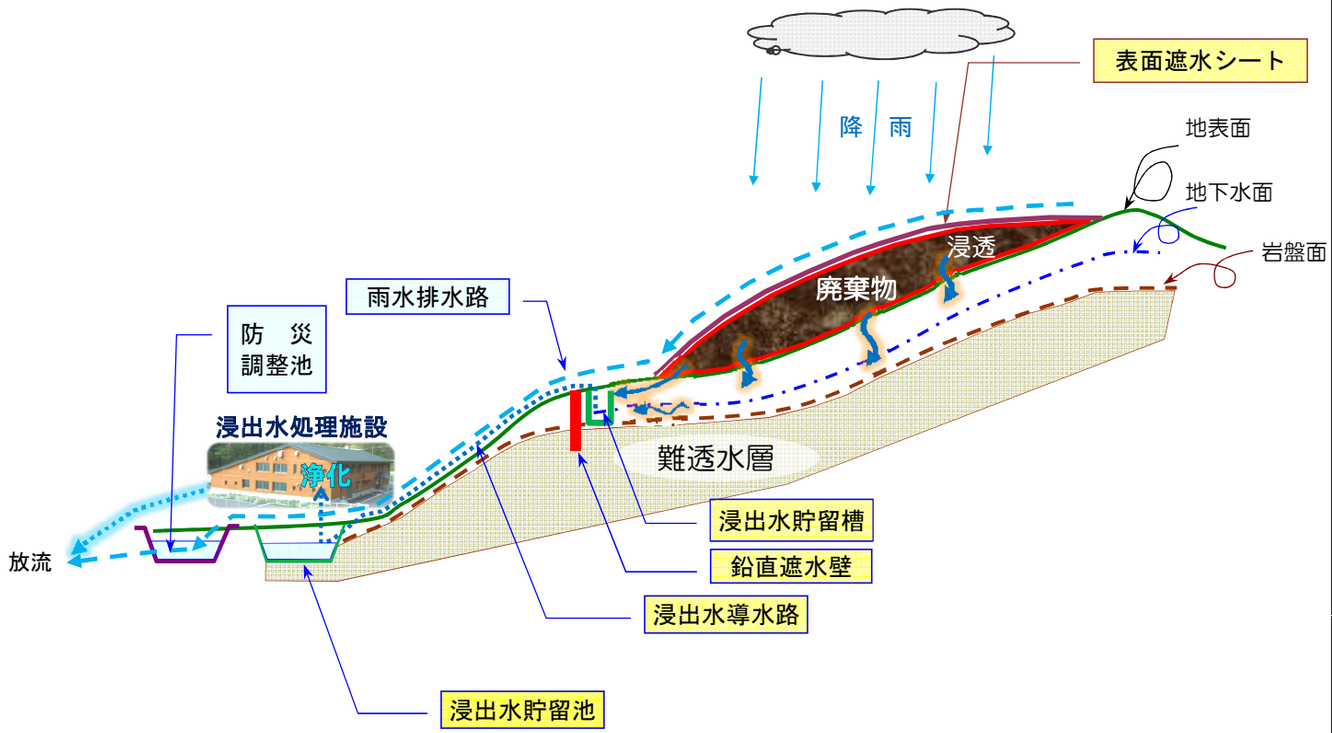
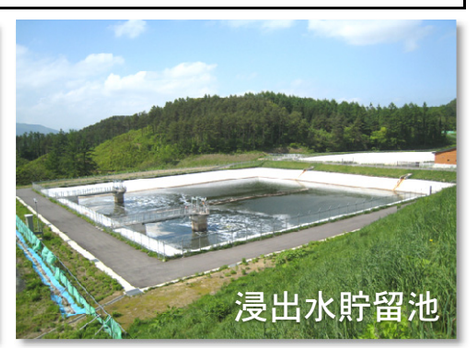
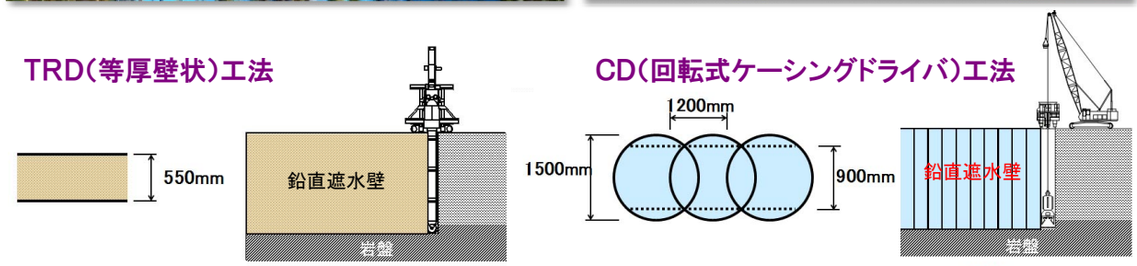
汚染拡散防止対策（長期的対策）

汚染拡散防止対策のイメージ







チェーンソー型のカッターを差し込んで横引きし地盤を掘削。
地中に障害物がなく土質が良い場所で行う。

円柱の筒を回転させ地中に押し込み掘削、並べて壁にする。
地中に硬い石があり土質が悪い場所で行う。

通常、雨水は地中に染み込んで地下水となったり、地表をつたって川に流れ込みます。しかし、現場は表面遮水シートで覆ったため、水の流れは早くなり、水量も増加することになります。

そこで、雨水排水路を整備したり、放流する水の量を調節する防災調整池を整備して、下流に一度に多くの水が流れ込まないようにしました。

浸出水は地下の導水路を通り浸出水貯留池に流下します。

ここから一定量を浸出水処理施設に取り入れ、浄化した水を近くの沢へ放流します。

浸出水が現場の外へ流出するのを防ぎ、一ヶ所に集中させて効率的に浸出水処理施設に導水するため、現場を取り囲むように遮水壁を設置しました。

水を透さないソイルセメントの壁を、難透水性岩盤に根入れして設置することで、現場全体の遮水性を確保できる構造としました。

［遮水壁］長さ987m、深さ平均20m(15～30m)、厚さ50cm以上、透水係数10^{-6}cm/秒以下